

(第 12 回) 自然散策会 我孫子・手賀沼付近散策記 10月1日

令和元年 11 月昭和記念公園散策以来、約 3 年振りの自然散策会でした。水と緑の豊かな手賀沼をボートで遊覧した後、大正時代には「北の鎌倉」と称された我孫子の文化人・著名人の別荘地跡や庭園を巡るという総勢 17 名参加での散策でした。

- ・ 8 時 50 分 我孫子駅改札口集合 天気：晴れ
- ・ 9 時 8 分 我孫子駅発阪東バスにて出発
- ・ 9 時 15 分 手賀沼公園下車
- ・ 9 時 30 分 小池ボートにて手賀沼遊覧出発 ガイド付き



ガイドさんの説明

「手賀沼の広さはディズニーランド 14 倍の広さ。水深平均 86cm と比較的浅い。昭和 49 年から平成 13 年までは日本一汚れのひどい湖で臭かった。その後、北千葉導水路の完成・利根川からの導水により水質改善を図ってきたが、それでも、現在はまだワースト 3 位。

ワースト 1 は印旛沼。戦後、埋め立てが行われ、手賀沼の広さは相当小さくなった。はすの群生地だったが 3 年前に消失した。」

汚れの酷い湖と聞いて臭いを心配しましたが杞憂に終わり、風を切りながらの快適なボート遊覧でした。ボートの周辺には大小のハクレンが飛び跳ねて、さながらホエールウォッチングのようでした。何故ボートの周りに魚が多いかガイドさんに尋ねたところスクレーが水を攪拌することで、酸素が行きわたり魚が喜ぶのだそうです。

鵜が悠然と佇む姿、かっぱの像を見ながら一時間の遊覧でした。定員 35 名のところを我々 17 名で貸し切り。コロナ対策も完璧でした。



- ・ 10 時 30 分 小池ボート着
- ・ 11 時 00 分 アビスタ図書館で、あびこガイドクラブのガイドさん 2 名と待ち合わせ。

我孫子散策に出発

- ・ 11 時 10 分 嘉納治五郎別荘跡、柳宗悦邸（三樹荘）ガイドさんの説明

「嘉納治五郎は柔道家として有名だが教育者・IOC 委員としても大いに活動。

明治 44 年この地に別荘を建てる。嘉納治五郎の姪が隣地に別荘を構えたことから後年、親戚筋の柳宗悦が住むようになった。」

平成 2 年に建立されたという嘉納治五郎の大きな銅像がありました。教育者としての嘉納治五郎の足跡を示す「達必力」（力むれば必ず達す）「鏡為人似」（人を以て鏡となす）という句が銅像に隣接してありました。

嘉納治五郎は 2019 年の大河ドラマ「韋駄天」で放送され、再認識したところでした。柳宗悦の別荘跡には別の方がお住まいで依頼すれば邸内を見学させてくれるそうです。



- ・ 11 時 30 分 楚人冠公園・記念館

ガイドさんの説明

「杉村楚人冠は朝日新聞社記者として国際的にも知られている。別荘として購入し、大森から居を移した。植物をこよなく愛し、庭園には針葉樹から梅、桜といった花木まで植え、特に椿を愛した。庭園には浴場・池も作った。母親思いの杉村はなるべく母親の側にいる為に、敢えて通勤せずに通信手段として伝書鳩を活用した。」今回、初めて知った杉村楚人冠というジャーナリストは手賀沼を愛し、嘉納治五郎などと手賀沼保勝会を組織したそうです。記念館には入りませんでしたが、庭園も地形を上手く活用した立体感のある作りになっていました。浴場跡も見ましたが、当時の湯を運ぶ重労働が偲ばれます。

・11時50分 志賀直哉邸跡



ガイドさんの説明
「志賀直哉は父と不仲で激しく対立した。この地にいる間が一番精神的に落ち着いていた時期でここで多く

の名作（暗夜行路、小僧の神様等）が生まれた。調べていくと直哉に関する面白いエピソードが沢山ある。」住居は跡が残るだけで別棟の書斎のみが残されていました。この地に來たのは柳宗悦の誘いだったそうで文人の間の人間関係が垣間見られました。



・12時00分 旧村川別荘跡

ガイドさんの説明

「西洋古代史学者、村川堅固が建設し、息子の堅太郎が守った親子2代に亘る別荘。旧我孫子宿の本陣離れを移籍した母屋と、住まいを重視

した堅固が建築した新築である。」

村川堅固・堅太郎も始めて聞く名前でした。相当広い敷地にある本格的な別荘という感じです。玄関から中を覗かせてもらおうとバーナード・リーチから寄贈されたという灯籠がありました。バーナード・リーチに関しては原田マハ著「リーチ先生」の中に我孫子における文人同志の友情が描かれていて、今回なるほどと思う箇所が幾つかあり興味深く感じます。

・12時38分 我孫子高校発阪東バスで「角松」へ

・12時50分 緑一丁目下車

・13時00分 「角松」にて会食

・角松は明治天皇が宿泊された由緒ある割烹旅館です。明治天皇が宿泊された部屋は既にもありませんが、今回は庭に面した大広間を貸し切りで、且つ



コロナ対策の為アクリル板で席の間を仕切った形で宴会を行いました。久しぶりのリアルでの会食で大いに盛り上がりしました。

・15時00分 我孫子駅にて解散

3年振りの自然観察会（我孫子・手賀沼付近散策）は天候に恵まれ、参加された皆様のご協力で何とか無事に終える事ができました。厚く御礼申し上げます。下見の時には蚊がいなかったのですが、当日は蚊に刺された方が大勢いらしたそうで幹事の調査不足でした。何卒ご容赦下さい。

何より昼食会で参加の皆様と親しく（アクリル板越ではありませんが）お話ができお酒を酌み交わす事が出来たのが最大の収穫でした。（幹事 織田文雄記）



(第47回) 音楽鑑賞会

紀尾井ホール室内管弦楽団第132回定期演奏会 (2022年9月23日、24日)

去る9月23日と24日、紀尾井ホールにて、第132回紀尾井室内管弦楽団の定期演奏会としてトレヴァー・ピノックの第3代首席指揮者就任記念コンサートが開催された。プログラムはワーグナーのジークフリート牧歌、ショパンのピアノ協奏曲第2番へ短調、シューベルトの交響曲第5番変ロ長調で、アイアン・クラブからの参加者は23日が3人、24日が13人とのことであった。トレヴァー・ピノックは4月に就任記念コンサートでタクトを執る予定であったが、急病で来日できなくなりこの度満を持しての登壇となった。



クラシックを聴くのは好きではあるけれど日頃そんなに熱心に聴いているわけでも詳しいわけでもない。そんな私でもほとんどの回に足を運んでいるのが紀尾井室内管弦楽団の定期演奏会である。それはこの演奏、企画ともに素晴らしいからの一言につきるのであるが、単にソリスト級の腕を持つ演奏者たちの集団だからではない。何度も練習を重ね、トレヴァー・ピノックのような素晴らしい指揮者に恵まれて音楽を作り上げていくのはもちろんのこと、ホールの響き、アンコールを含めた選曲、その他企画、運営も含めてあらゆる方々のご尽力の賜物であると推察する。今回初めて鑑賞記というものを書くにあたり、拙い文章ではあるがその幸せな時間をまだ体験されていない方に、多少なりともお伝えできればと思う。

さて今回は執筆のこともあり、紀尾井では初めて同じプログラムを2日間続けて聴いた。1曲目はワーグナーのジークフリート牧歌。この曲はリストの娘であるコジマが、夫であったワーグナーの弟子ハンス・フォン・ビューローのもとを去ってワーグナーと同居後に、初めての男児ジークフリートを出産して晴れてワーグナーの妻になったのであるが、このコジマの誕生日にサプライズで聴かせるために内密に作曲されていったというエピソードがある。クリスマスでもあるその日、コジマの寝室から下まで並んだ演奏家をワーグナー自らが指揮をして演奏された。楽劇ジークフリートのモチーフなども織り込まれた穏やかな愛溢れる美しい曲で、繰り返し演奏されるシンプルなメロディーが次々と展開していく。トレヴァー・ピノックといえば古楽に精通し自らもチェンバロを演奏するとのことであるが、ワーグナーのこの曲は欧州の室内オケと何度も演奏しているというからお気に入りの曲なのであろう。人生には何度か例えようもなく幸福な時間というものがあるが訪れる機会があると思うが、まさにワーグナーのそれを追体験できるような、自らも幸福感でいっぱいになるような曲であり、またそれを忠実にかつ聴くものの感情を豊かにするような演奏であった。

2曲目はショパンのピアノ協奏曲第2番。今回初来日となる注目の2007年生まれ、若干15歳のピアニストであるアレクサンドラ・ドヴガンの登場であった。



15歳といえばまだ中学3年生か高校に入ったばかりか？しかしながらステージに現れた瞬間の落ちついた佇まいは、卓越した演奏技術も含めて既に成熟した大人のような印象を与え、きめ細やかなタッチで情感溢れる演奏を聴かせてくれた。この曲は甘美な第2楽章において、同じワルシャワ音楽院の声楽科学生コン

スタンツィヤへの想いが込められているという。（「僕はこうしてあの理想の人に忠誠を捧げ、夢に見てきた。その思い出ゆえに僕の協奏曲のアダージョができ～」と書かれた手紙が残っている。）作曲家はかくも自分の愛する者への思慕を美しい音楽へと浄化して、時間と場所を超えて我々に伝えてくれるのである。完璧な演奏に熱狂した我々聴衆のアンコールに応じて披露されたのは、初日が同じくショパンのマズルカ第13番イ短調op.17-4、2日目はシロティ編曲によるバッハの前奏曲第10番ロ短調（原曲はヨハン・セバスティアン・バッハ作曲「平均律クラヴィーア曲集第1巻より第10番ホ短調BWV855」）であった。ショパンのマズルカは言うまでもなくショパンコンクールの課題曲にもなるほどの作品で、いずれも小品ながらポーランド独特のリズムと音の構成を持っただけにもショパンらしく、ある意味で大変難しい曲だが彼女はそれをさらりと弾きこなした。またラフマニノフの従兄弟であるというシロティ編曲によるバッハの前奏曲は、何かと不安の多い現代に生きる私たちのすさんだ心に染み入り、思わず涙が浮かぶほどの美しい音を紡いだ演奏に、誰もが彼女の将来を楽しみにするに違いないことを確信した。

3曲目はシューベルトの交響曲第5番変ロ長調。シューベルトは私たちが子供の頃の音楽の授業では必ず聴くこととなる歌曲集「冬の旅」などの美しい歌曲で馴染みがある作曲家である。寄宿制神学校で恐らく厳格な教育を受けた後に交響曲を一曲ずつ緻密に書き上げていったのであるが、この第5番は19歳の時の作品とのことである。10代で既にこのような曲を書き上げることに驚きを禁じ得ないのであるが、彼が理想としたというモーツァルトのエレガンスともいうべき軽やかさが随所に伺われる。小柄ながら情熱的なタクトを振るピノックに紀尾井の楽団員たちが心を合わせて演奏し、その熱演ではほぼ満員に近く集まった聴衆を魅了していた。

プログラムが終了した後も拍手は鳴り止まない。何回かのカーテンコールに応じてシューベルトの26歳の時の作品であるロザムンデ序曲から間奏曲第3番が演奏された。オーケストラのアンコールは定期演奏会においてなかなか聴く機会がないと思うが、今回は新指揮者の就任記念コンサートということもあってであろう。フルコースの後で宝石のように美しいデザートを味わったかのような、最後の最後まで存分に楽しめた定期演奏会であった。



（ベステラ株式会社 仲村清美 記）

(第103回) 歌舞伎観劇会 11月22日(夜の部)

市川海老蔵改め十三代目市川團十郎白猿襲名披露

十一月吉例顔見世大歌舞伎(八代目 市川新之助初舞台)

歌舞伎ファン待望の13代目市川團十郎白猿と8代目市川新之助のダブル襲名披露はコロナに拠り約2年半に亘り延期されて来ましたが、漸く此の程11月吉例顔見世歌舞伎興行として行われる運びとなりました。

演目をご紹介する前に、これから歌舞伎ファンになられる方の為に歌舞伎界独特の表現、言い回し更に今回襲名披露された市川團十郎一家等を簡単にご説明したいと思います。(資料は歌舞伎座発行のパンフレットより抜粋)

現市川團十郎一家概要：今回13代目市川團十郎は昭和52年生まれ、12代目市川海老蔵を経て此の程13代目市川團十郎白猿を襲名。妻は元フリーキャスターだった小林麻央さんですが残念ながら2017年に亡くられました。一男、一女のお子様がいて長女は市川ぼたん、長男は今回8代目市川新之助を襲名されたかん玄君ですが、母親麻央さんが亡くられた当時のかん玄君と今回新之助襲名された表情、セリフ回し等此の5年間の成長振りを物語っております。團十郎の屋号である成田家とは團十郎の祖先が甲斐武田家の家臣であったが、成田市に移住し江戸で役者として名声を得た処から、成田家が團十郎一族の屋号となりました。

歌舞伎十八番：江戸時代に7代目團十郎がそれ迄に演じた荒事から18演目を選び最良筋に配った事が十八番としての始まりで今回の演目の内勧進帳、助六等が入っております。現在でも得意な芸等の事を十八番と称しますが語源は上述の様に歌舞伎の演目から出た言葉です。

にらみ：市川家に伝わる見得であり、独特のポーズ。舞台袖でならされるツケ打ち(バタバタバタと云う音)と共に左手に三宝を持ち、右手を胸の前

で握り客席に向かってカッと目を見開く所作で無病息災の為の邪気払いとされている。

隈取り：初代團十郎の発案に拠るものとされており、地色を塗った後に指で片側をぼかす独特の化粧法で二本隈、一本隈、むきみ等があります。以上市川家に関する歌舞伎用語をご説明しましたが、用語を理解するだけでも歌舞伎に関する興味が増してくると思われます。

演目説明

1. 矢の根

十八番の演目の一つであり江戸時代の三大仇討ちに入る曾我兄弟の仇討ちを題材にした荒事扮装をした松本幸四郎扮する蘇我五郎時を主人公とした演目。



曾我五郎は幼い頃に父河津三郎を工藤左衛門佑経に討たれ運命を背負っております。そんな折五郎時到着は夢枕に兄の曾我十郎佑成が現れ現在父の仇工藤佑経の館に幽閉されており五郎時到着に救いを求める。之を受けて五郎時到着は兄十郎を救出すべく、支度をし折り良く通りかかった馬士の畑右衛門に馬を借りるべく頼み込むが断られたので、畑右衛門の馬を強引に借用し積んでいた大根を鞭代わりとして工藤左衛門佑経の館に向けて疾走して行く場面で幕となります。

2. 口上

今月の歌舞伎興行のハイライトとも云うべき演目であり、市川海老蔵の13代市川團十郎白猿襲名披露並びに市川かん玄の八代目市川新之助襲名及び初舞台披露と市川家の親子でダブルの襲名披露です。本来は2年前に行われる予定でしたが、コロナ騒動の為に今回迄延期された経緯があります。



舞台中央に父團十郎白猿と長男新之助が並んで座り、両側には一門のみならず歌舞伎界を代表する役者が勢揃いしそれぞれ襲名披露に対し祝辞を述べました。舞台に並んだ役者は次の通りです。(除く團十郎/新之助)

襲名披露の二人の右側には松本幸四郎白鷗、中村梅玉、坂東玉三郎、尾上菊五郎。又左側には市川左団次、片岡仁左衛門等が並び祝辞表明しその後団十郎白猿が“にらみ”を披露し華やかな襲名披露と襲名挨拶を行いました。

3. 助六由縁の江戸桜

之も市川一門の十八番演目の一つであり、助六

役は勿論團十郎白猿が勤めております。

舞台は吉原仲之町、当時の伊達男と云われた花川戸助六が登場すると花魁達の人気を一身に集めておりましたが、実は助六は曾我五郎時到着が名を借りており源氏の宝刀たる友切丸を探す日々を送っています、兄曾我十郎佑成も白酒売り新兵衛と名を変えて弟五郎を助ける役割。助六の恋人役、揚巻には尾上菊之助又揚巻の妹分として白玉には坂東玉三郎が妍を競う絢爛豪華な江戸の下町風景を醸し出しており更に全編を通じ河東節の三味線、唄が流れ一層豪華さを添えている一代絵巻の舞台です。



なお、今回の歌舞伎観劇会は、アイアン・クラブ会員、ご家族の方々が昼の部に17名、夜の部に26名ご参加されました。

(相田 實・記)

(第3回) 東京宝塚歌劇観劇記

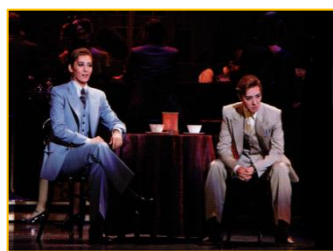
「グレート・ギャツビー」 10月5日

3年ぶりの宝塚観劇は、10月5日(水)、季節外れの冷たい雨降る日でした。日比谷の宝塚劇場前は女性、女性、女性が溢れ、いっぺんに華やかな雰囲気包まれ、宝塚を初めて観劇した昔の気恥ずかしい思いが少し戻ってきました。

コロナ禍で団体扱いが貸し切りだけに限定されて、皆様へのご案内が長い間出来ませんでしたが、今回は阪急電鉄さんの特別のご配慮で、舞台に近い格好の席を確保頂き、アイアンクラブ会員14名の方々がご参加されました。



超満員の宝塚ファンのあの熱気と興奮が高まるうちに開幕。月組による、20世紀アメリカ文学の最高峰と言われているF.スコット・フィッツジェラルド作「グレート・ギャツビー」の始まりです。幕が開くと、ニューヨーク郊外の住宅地に聳える大豪邸、謎の資産家ジェイ・ギャツビー(月城かなと)が夜ごとに催す大パーティー、1920年代アメリカンドリーム、禁酒法、ジャズエイジの狂乱の時代を背景に、ジャズのメロディーに乗って、激しいダンスに興じる若者たち、禁酒のはずのシャンパンやワインが堂々と振舞われ、見事な舞台セット、色彩豊かな衣装、華やかな宝塚の空気一気に引き込まれました。



物語はギャツビー邸の隣に建つ小さな家に引っ越してきたニック・キャラウェイ(風間柚乃)とギャツビーとの会話から始まる。対岸のイーストエッグに

住むギャツビーの永遠の恋人デイジー(海乃美月)は、やがてニックのいところである事が分かり、後に二人の間

をつなぐ絆となる。デイジーは、ニックの大学同窓生で由緒正しい富豪のトム・ブキャナン(鳳月杏)と結婚、出産をして、裕福な暮らしをしているが、夫の愛人問題で虚ろな日々を送っている。



5年前欧州戦線に応召される前にギャツビーとデイジーは出会い、恋仲になったが、家柄の違いでデイジーの両親から引き裂かれ、失意のな

か戦場へ向かい、数々の戦功を挙げ、戦争から帰った後も、デイジーとの恋を取り戻す為、時に危ない橋を渡りながら、アメリカンドリームを成し遂げ、富と地位を手に入れた。デイジーの家の対岸に豪邸を建て誰が来ても良いパーティーを開き続けたのも、全てはデイジーとの再会を期しての事だった。



そしてニックの手引きで二人は再会を果たし、5年前の胸の高鳴りが蘇り、輝ける未来を夢見るが———駆け落ち迄考えた二人の車がトムの浮気相手のマートル・ウィルソン(天紫珠季)を誤って轢き殺してしまい、デイジーの罪を被ったギャツビーはマートルの夫ジョージ・ウィルソン(光月るう)に撃ち殺される。ギャツビーの葬式、彼のパーティーにはあんなに人が集まっていたのに、彼の父親とニックの二人しか参加せず、デイジーはお墓に花を供えるだけでそそくさと車で後にする。

劇中での、デイジーの言葉「子供が出来た時、もし女の子なら“おバカに育て”そう思った。女の子は美しいおバカが最も幸せ」、ニックの父親の言葉「ひとを批判したいような気持ちが起きた場合は、この世の中の人みんなおまえと同じように恵まれているわけではないということ、ちょっと思い出してみるのだ」、ニックがギャツビーに最後言った言葉「ギャツビー、君に比べたら連中はくだらないよ。束になっても君にはかなわない」金、見栄、地位に狂奔した時代、社会の中で純粋に愛を求めて、一途の人生を送ったギャツビーに共感し、胸を熱くした舞台でした。



宝塚の出し物としては、珍しい二幕ものの大作で、今回は三回目の上演でした。私は、今まで星組公演ばかりで、月組公演は初めての観劇でしたが、トップになってまだ1年目の月城かなとさんの堂々とした立ち振る舞い、端正な顔立ち、知性ある演技、歌唱力、踊り、全てに卓越した才能を感じました。相手役デイジーの海乃美月さんは、女性として母として生き惑う役を好演、踊りも歌も素晴らしかった。月組のファンになりました。



宝塚の看板ともいえる大階段での絢爛豪華なフィナーレ、月城かなとさんが大きな花を背負い「朝日の昇る前に」を歌いながら降りてくる立ち姿、文句なしで宝塚は、素晴らしいし、元気を貰えます。

高揚した余韻を覚えながらの帰り道、この気持ちを共有するお喋り会が無いのが残念。次回は是非終了後の感想会も企画したいなと思いました。次回も皆様、ご参加ください！

(追記) 後日宝塚ファンの方から、耳よりの情報をお聴きしました。既にご存知かもしれませんが、ニック・キャラウェイ役を好演した風間柚乃さんは、若くして病気で亡くなった往年の美女、夏目雅子さんの姪御さんとの事。改めて写真を拝見、確かに雰囲気似ています。更に調べてみますと、父はプロゴルファーの小達明、伯母は女優の夏目雅子、義伯母は何とキャンディーズのスーちゃん、田中好子でした。

(山田清實・文)



(第1回) 浪曲大会 「伝承し飛翔する・繋ぐ名跡！」 10月15日



6~70 年前、家のラジオから流れる「旅行けば～あ～駿河の～お国にい～茶の香り～」に、首を振りながら調子を合わせる父親の傍に居たのが、浪曲との出会いでした。数年間はそんな茶の間の風景でしたが、以降は浪曲に触れることなく、後に歌謡界で三波春夫、村田英雄、二葉百合子の歌謡浪曲を耳にするだけでした。最近になり親戚の娘が浪曲師にデビューしたこともあり、偶に高座に足を運ぶようになり、テレビ、ラジオでも番組が増え、少しずつ人気を取り戻しつつあるようです。でもまだまだマイナー、中年を含む若い人達に浪曲とか浪花節と言うと、きょとして“それな～に?”。

質問を受けて、調べました。

明治時代初期から始まった演芸で、落語、講談と共に「日本三大話芸」のひとつとされ、最盛期の昭和初期には、全国に 3000 人の浪曲師がいた。三味線を伴奏に用いて物語を語る。古くから伝わる浄瑠璃や説教節、祭文語りなどが基礎となって大道芸として始まり、その後明治時代初期、大阪の芸人、浪花伊助が新しく売り出した芸が大受けして、演者の名前から「浪花節」と名付けられた。以後、桃中軒雲右衛門や二代目広沢虎造の活躍で戦前まで全盛を迎える。庶民的な義理人情に訴える作品の他、武芸もの、出世もの、任侠もの、悲恋もの、ケレンものと呼ばれるお笑いなど多種多様で、親子の愛、師への尊敬、忠義、礼節など、次世代に伝えたい「誇るべき日本」の姿を肩の張らないスタイルで表現している。

浪曲は主に七五調で演じられ「泣き」と「笑い」の感情を揺さぶる。時代に翻弄されつつ、いつも人々の心に寄り添ってきた芸能である。

一つの物語を「節」と「啖呵」で演じる。節は歌う部分で物語の状況や人物の心情を歌詞にしており、啖呵は登場人物を演じてセリフをはなす。重視する順を「一声、二節、三啖呵」という。前の

二つを「声節」と呼び、特に重要視する。落語は「話す」講談は「読む」浪曲は「語る」と言われる様に、聴かせところがことなる。

日本の古典芸能への懐かしさと再興への応援の気持ちで、会員の皆様へ初めてご案内を致しました。日本浪曲協会主催の年一回の第 55 回浪曲大会「伝承し飛翔する・繋ぐ名跡！三代目広沢菊春襲名披露興行」、10 月 15 日浅草公会堂での開催でしたが、浪曲ファンで懐かしいと称する 5 名の方のご参加を頂きました。会場は 500 名ぐらいのファン、男女半々、年齢は高め、騒めきの中に熱気が伝わります。

11 時開演、緞帳が開きます。

舞台中央に金屏風。その前に腰ぐらいの高さのテーブルを置き、花や動物など演者の個性を表現した模様のテーブルかけが掛けてある。相撲の化粧回しの様にファンが浪曲師に贈るものであり、金糸で寄贈者の名前、会社名が記してある。右手には曲師と呼ばれる三味線の演奏者が座っている。



第一部始まる。出し物は、「那須与一」、「横綱玉の海」、「寅さん 20 作目の男はつらいよ」(中村正俊、大竹しのぶの声色入り)、「大久保彦左衛門」、「妻は夫をいたわりつー」の名文句の「壺坂霊驗記」、菊池寛の名作「父帰る」とバライティーに富んだ題目に惹きつけられ、どれも大筋は知っていて、とても面白い。前列のオジサン、浪曲師のセリフ、節回しに合わせて機嫌よく小声で唸ってい

る、年期入りのファンです。



第二部は、本日の目玉公演、大名跡襲名、三代目広沢菊春の誕生です。黒紋付姿の浪曲協会お歴々が居並ぶ中央に、若手の逸材澤勇人氏が位置し、厳粛な襲名披露の口上が続きます。澤孝子師匠の生前の思いに応え、浪曲界の再興に向けて牽引役を期待します。



お祝いの前舞台は、澤一門順子、恵子、雪絵の三人の浪曲師掛け合いの浪曲三重唱「日本婦道記」。山本周五郎の短編名作「不断草」、登野村三郎兵衛と離縁した菊枝と姑の三人の心の機微を描いたやり取りを見事に演じ、息がぴったり合い、気合の入った出来栄でした。



そして、真打登場。三代目広沢菊春師匠の「徂徠豆腐」、江戸時代の儒学者荻生徂徠の不遇の時に豆腐屋から受けた恩を、出世後に恩返しする話を、奥様の美舟氏の三味線を伴奏に、張りのある声で熱演、立派な晴れ姿でした。

第三部、お祝いの熱気が残る中で、先ずは若手

前座7名のお披露目。初々しい所作、若々しい声音に、浪曲界のこれからの発展が期待されます。



その後は、現在の浪曲界を代表する浪曲師が登場、一番バッターが私の親戚、国本はる乃、浪曲界の最若手で、25歳。張りのある声、情感籠る語り口で、「堀部安兵衛」を語る。上達ぶりが伝わり、観客の評価も高く、将来性が期待される。東家一太郎は、江戸の花形火消し「野狐三次」、男っぷりを語り、玉川奈々福は、「天保水滸伝からボロ忠」の義侠心を語り、港家小柳丸は鉄道工事を背景に火花を散らす男たちの熱い物語、「亀甲組加太山」を語る。トリは長谷川伸の名作生き別れた母を探す人情物、「瞼の母」を三門柳が演じる。大トリは浪曲協会会長東家三楽が平家の落ち武者と頼朝の不興を買った与一との物語を語る。珍しい横笛が入り、情感描写に一役果たす。



7時間に亘る浪曲を昼食を忘れ、たっぷり楽しみました。皆様の感想を伺いながら、次のご案内を考えます。尚、浅草木馬亭では、毎月月初に浪曲の定席が催されていますので、お試しください。

(掲載写真：森幸一) (文：山田清實)

(第113回) ゴルフ大会 12月1日

清澄ゴルフ倶楽部 (優勝) 寺原 正紘

三村新理事長も参加された第113回の大会は、12月1日(木)東松山市にある清澄ゴルフ倶楽部にて開催されました。

このコースは太平洋セメント社が、風光明媚な岩殿丘陵にある元粘土山を「できるだけ自然に」とのコンセプトで開発したものです。従い地形を生かした池・木々・傾斜に囲まれた美しく、戦略性に優れたコースとなっています。

同社(旧日本セメント)発祥の地である江東区・清澄を名称とされたようです。いわばセメント業界での「鷹の台CC」です。幅広く新たな会場を実現する一環として、今回が初開催となりましたが、多くの優遇(昼食・ビール無料、賞品ボールの寄贈など)をいただき大歓迎を受けました。是非機会があればまた行いたいと考えています。

当日は曇りで風も弱く、少し冷えましたがプレイにちょうどよく、参加した15名の精鋭も無事楽しく完走いたしました。前日から東松山市のホテルに宿泊した方に

は懇親会が盛り上がり夜中の2時ごろ就寝した方々もいたようです、さすがに猛者です。

パーティーでは、松野幹事の司会にて、初参加の三村理事長、山田委員長のご挨拶から始まり、表彰式、優勝した寺原正紘氏から順に参加者にも発言していただき、例の通り和気藹藹の雰囲気でも盛り上がりました。三村理事長は先月商工会議所会頭を引退し、60年以上にわたる社会での活動から開放され、いわば新しい門出の最中とのことです。

今回は惜しくも四位と入賞は逃されましたが、明るく健康的なゴルフはまだ十分若々しさを感じさせ元気です。当クラブの活動にもできるだけ参加したいとのご意向で、早速次の日程は、令和5年3月7日(火)江戸崎カントリークラブでの開催が決まりました。来年も年5回を目途にゴルフ大会は行われます。

是非若手も含め多くの会員が参加されるようご案内申し上げます。

(近藤 裕行・記)

【成績表】(敬称略)

(優勝) 寺原 正紘
(準優勝) 羽矢 惇
(三位) 多田 博
(BB賞) 平山 喜三

<ニアピン> (敬称略)

(3番) 田中 政義・羽矢 惇
(8番) 三村 明夫・出原 悠
(13番) 多田 博・出原 悠
(17番) 松野 良一



優勝記



去る12月1日、埼玉県東松山市の名門清澄ゴルフ倶楽部で行われた第113回ゴルフ大会で図らずも優勝させていただきました。

当日は、三村理事長をお迎えしたゴルフで、折角の日なので、朝からの天候が気になりましたが、幸いプレー中は一滴の雨も降らず、好日和のゴルフ会となりました。

この度のゴルフは、名高いエイジシューターの木原様と同じフォーサムでプレーをさせていただき、ブレのない、したたかなゴルフを目の当たりに拝見しつつ、手堅いゴルフをされた松野様、当日突然絶不調になられた平山様とラウンドをご一緒し、かく言う私もドライバーで華麗な空振りをしたりして散々のゴルフになり、懇親会で渡されたコンペの成績表も、下から順に見上げたのですが、私の名がありませんでした。おかしいなと見直したところ、優勝者としての名前があり、ハンディ勝ちの優勝に飛び上がり、こうして優勝記を書くことになった次第です。

振り返ると、二十代の後半からゴルフを始め、商社勤務で海外生活も長かったため、世界の各地における様々なゴルフを楽しんで参りました。

遠い昔、日本の鐵の庭になっていたパキスタンのカラチでゴルフをしましたが、草の無い土漠上のゴルフは、豪快によく飛ぶというより転がり、稀に小石や乾いた凝糞に当たれば、とんでもないことになったりしましたが、面白いのは、緑の芝のグリーンではなく油を巧みに交ぜ込んだチョコレート色の極めて細かな土で出来たチョコレートグリーン上で行うパットです。先に打った方

のパットの軌跡がきれいに残り、それをレイカーでならしても、後からは打ちやすかった記憶があります。

次に記憶に残るのは、丁度今頃、北京でやるゴルフです。順義(現・北京高爾夫倶楽部)という北京空港に近くであり、逝くなった江沢民が会員第一号で、当時の新日鉄が運営していたゴルフ場の会員としてゴルフを楽しみましたが、丁度今頃はゴルフコース上の池という池がカチンカチンに凍ってしまい、球が滑って楽々とツーオンできたり、グリーンも凍って球が止まらないので、乗って落ちてでも2パットでOKの甘い勘定で楽しんだりしていました。

また、今ごろの寒い冬ゴルフを、カナダのバンクーバーの生活でも楽しみました。カナダに居ながらロシアの奥地のガス田から出る硫黄分の多いパイプラインを新日鉄と決めたり、川崎製鉄の直径1.80メートルの大径鋼管をバンクーバー湾の海底パイプライン用に決めさせて頂いたりした生活でしたが、バンクーバーの冬は雪深く冷たい内陸と違い、黒潮に恵まれて冬でも緑が多い豊かな街で、真冬は家族を海拔1,200メートル程のマウンテンスキー場に送ったあと、裾野のゴルフ場に集まってゴルフをやり、家族を迎えて夜は、麓の街で海鮮中華料理を楽しんだりした懐かしい思い出があります。

年年歳歳、もはやエイジシュートは夢のまた夢の歳になりましたが、スコアアップを気にするというより、ゴルフの後のいわく19番ホールを楽しめれば幸いのゴルフを、いつまでもみなさまと楽しませて頂ければと思いますので、今後ともどうかよろしくお願い申し上げます。

(寺原 正紘・記)

講演会実績（ハイブリッド方式にて実施）

【敬称略】

回数	日 程	講 師	役 職	演 題
540	10月21日	柯 隆	東京財団政策研究所 主席研究	習近平政権の正念場
541	11月29日	畦蒜 泰助	笹川平和財団主任研究員	ロシア・ウクライナ戦争と今後の世界情勢
542	12月15日	寺島 実郎	日本総合研究所会長	2023年への展望－世界史的転換点に立つ日本の選択

（製鉄原料七洋会主催の講演会）

11月7日 畠山重篤（NPO 法人 森は海の恋人 理事長） 演題「森は海の恋人」

Monday Forum（鉄鋼会館会議室にて実施）

【敬称略】

回数	日 程	講 師	役 職	テーマ
2	10月24日	伊岐 典子	21世紀職業財団会長	ダイバーシティとインクルージョン
3	11月28日	佐相 秀幸	東工大特任教授	I C Tの潮流と産業
4	12月19日（※）	南部 智一	住友商事代表取締役副社長	D Xと構造改革

（※）第4回は、MIRAI LAB PALETTE hub（千代田区大手町）にて開催

新入会員（敬称略・順不同）10月6日～12月31日までの入会者



久保 正幸
JFE 協和容器
相談役



堀江 誠
三井住友ファイナンス&リース
特別顧問



植野 幹彦
（元）三井物産



田代 博
日鉄物産
取締役常務執行役員

令和4年12月31日現在 総会員数 526 名

会合・行事・講演会等の日程について

< >は会場。講演会、Monday Forumで、
特に記載のないものの会場は鉄鋼会館

令和5年1月6日 現在

会合・行事・講演会等	日 程		時 間	講 師・場 所 等
ニューイヤークンサート	1月20日	(金)	19:00	<紀尾井ホール> (特別演奏会)
	1月21日	(土)	14:00	
	1月22日	(日)	14:00	
第5回 Monday Forum	1月23日	(月)	18:30	松井透氏 (三井物産(株)常務取締役) <会場：三井物産(株)会議室>
1月講演会 (第543回)	1月24日	(火)	12:05	伊藤元重氏 (東京大学名誉教授)
第3回正副委員長会議	1月30日	(月)	13:00	オンライン会議
第48回音楽鑑賞会	2月10日	(金)	18:00	<紀尾井ホール> (第133定期演奏会)
	2月11日	(土)	14:00	
2月講演会 (第544回)	2月17日	(金)	12:05	村井俊治氏 (東京大学名誉教授、 地震科学探査機構会長)
第6回 Monday Forum	2月20日	(月)	18:30	(株)LIXIL社長瀬戸欣哉氏
第5回広報委員会	2月21日	(火)	11:30	<アイアン・クラブ会議室>
第45回第二事業委員会	3月1日	(水)	10:00	<鉄鋼会館会議室805号会議室>
3月講演会 (第545回)	3月6日	(月)	12:05	松原美穂子氏 (NTTチーフ・サイバー セキュリティ・ストラテジスト)
正副理事長・ 正副委員長 懇談会	3月6日	(月)	13:30	<鉄鋼会館会議室>
ゴルフ大会	3月7日	(火)	-----	<江戸崎カントリー倶楽部>
第41回第一事業委員会	3月8日	(水)	13:30	オンライン会議
第32回第三事業委員会	3月9日	(木)	10:30	<鉄鋼会館会議室805号会議室>
第7回 Monday Forum	3月13日	(月)	18:30	マッキンゼー日本支社 岩谷直幸氏 柿元雄太郎氏
歌舞伎観劇会	3月吉日		時間未定	<歌舞伎座>

会合・行事・講演会等の日程について

< >は会場。講演会、Monday Forumで、
特に記載のないものの会場は鉄鋼会館

令和5年1月6日 現在

会合・行事・講演会等	日 程		時 間	講 師・場 所 等
名所旧跡散策	4月7日	(金)	-----	大谷寺・大谷観音（宇都宮方面）
第4回宝塚観劇会	4月9日	(日)	15:30	月組公演「応天の門」若き日の菅原道真 「Deep See－海神のカルナバル－」
	4月14日	(金)	13:30	
第8回 Monday Forum	4月17日	(月)	18:30	高橋清孝氏（第92代警視總監、 第20代内閣危機管理監）
4月講演会（第546回）	4月18日	(火)	12:05	古森義久氏 （産経新聞ワシントン駐在客員特派員）
第49回音楽鑑賞会	4月21日	(金)	19:00	<紀尾井ホール>（第134回定期演奏会）
	4月22日	(土)	14:00	
囲碁大会	4月24日	(月)	13:00	<鉄鋼会館会議室704会議室>
5月講演会（第547回）	5月吉日		12:05	小山堅氏（日本エネルギー経済研究所 専務理事、主席研究員）
第9回 Monday Forum	5月15日	(月)	18:30	山田尚文氏（中外製薬㈱取締役上席執行役員）
6月講演会（第548回）	6月吉日		12:05	篠田謙一氏（国立科学博物館館長）
第10回 Monday Forum	6月吉日		18:30	是川夕氏（国立社会保障・人口問題研究所 国際関係部長）
第50回音楽鑑賞会	7月14日	(金)	19:00	<紀尾井ホール>（第135回定期演奏会）
	7月15日	(土)	14:00	
7月講演会（第549回）	7月吉日		12:05	小坂文乃氏（日比谷松本楼社長）
8月講演会（第550回）	8月吉日		12:05	北村滋氏（前国家安全保障局長）
9月講演会（第551回）	9月12日	(火)	12:05	一柳良雄氏（元通産省、経営コンサルタント）
第51回音楽鑑賞会	9月22日	(金)	19:00	<紀尾井ホール>（第136回定期演奏会）
	9月23日	(土)	14:00	
第52回音楽鑑賞会	11月17日	(金)	19:00	<紀尾井ホール>（第137回定期演奏会）
	11月18日	(土)	14:00	

発行 アイアン・クラブ

令和5年1月15日

〒103-0025 中央区日本橋茅場町 3-2-10（鉄鋼会館）

☎03-3669-4825 F A X 03-3664-1457

E-mail : ironclub@ironclub.jp

URL : <http://www.ironclub.jp/>

事務局長 井田 裕之